

News Letter

事務局よりのお知らせ

日本形成外科手術手技学会
理事長 細川 亙

- 目次 -

- * 事務局よりのお知らせ
- * 第18回日本形成外科手術手技学会 印象記
- * 受賞者抄録
最優秀演題賞
- * 第19回日本形成外科手術手技学会お知らせ

この学会は、形成外科手術手技に関する研究・教育の発展と普及を目的とし、また、会員相互の知識の交流を深めることを目指して設立されました。日本において形成外科を専攻し実地的な形成外科診療に携わっておられる多くの医師が参加する学会に発展しつつあります。会員数は300名を超えさらに増加中です。

さて、第18回日本形成外科手術手技学会学術集会は本年2月13日に櫻井裕之会長の下、東京女子医科大学弥生記念講堂で催されました。「手技と主義」というテーマのもと、意欲的なプログラムで運営され大変有意義な学術集会でした。美術史家で学習院大学教授の荒川正明氏による特別講演「日本のやきもの—その魅力と匠の技—」では世界で尊重される日本のやきものについて興味深いお話を聞くことができました。日本の形成外科は既に世界水準ではありますが、やきもののようにもっと日本人的な価値観や美的センスを加えた術式等を発信して世界を驚かせていきたいものだと思います。本学術集会は大変盛会で演題数も多く、この学会としては初めて3会場を用いた学術集会となりました。櫻井裕之会長のご尽力に深謝申し上げます。

なお、第19回学術集会は平成25年2月21～22日に名古屋大学教授亀井譲会長の下、本学会としては初めて2日間にわたる日程で開催される予定です。
また学会員の皆様と学会場でお会いできることを楽しみにしております。

平成25年3月末日

第 18 回形成外科手術手技学会 印象記

会長 櫻井 裕之 (東京女子医科大学 形成外科)

第 18 回日本形成外科手術手技学会は、本年 2 月 23 日 (土) 東京女子医科大学弥生記念講堂と臨床講堂において開催されました。学会開催においてご協力をいただきました会員各位におかれましては、衷心より厚く御礼申し上げます。

今回は、学会のテーマ「手技と主義」を掲げ、会員の皆様が重ねてこられた手術手技向上への努力とともに、その背景にある考え方に関して議論を深めて頂こうとプログラムを組ませて頂きました。特別講演では、学習院大学で美術史を専攻されている荒川正明教授をお招きしました。日本の“やきもの”に関する多くの技法とともに、それぞれの時代背景と作品にこめられた作者の思いを分かりやすくご講演頂き、学会のテーマにも通じる興味深い内容でした。またシンポジウム 1 では、各施設で踏襲されている眼窩骨へのアプローチ法に関して、手技上の工夫とともに何を重要と考えそのアプローチ法を選択しているのかに関して議論していただきました。またシンポジウム 2 では、各施設において得意とする特徴的な組織移植術に焦点をあて、動画を用いて手技上の留意点を提示して頂きながら各教室で伝統的に引き継がれた・・・イズムを紹介して頂きました。これらシンポジウム 13 題に加え、一般演題においても 75 題と多くのご発表を頂き、当日の参加者は 230 名を数えました。3つの会場では、それぞれ白熱した議論が繰り広げられ、活気に満ちた学会となりました。

次回第 19 回本学会は名古屋大学亀井譲会長のもと、会期を 2 日間に延長して行われる旨承っております。形成外科医ひとりひとりがこだわる「手術手技」に関する忌憚ない意見交換の場として、本学会が今後ますます発展していくことを祈念いたしております。

毎回『News Letter』に掲載しておりました学術集会プログラムは日本形成外科学会誌に学術集会抄録として掲載することになりました。従って、今回から『News Letter』には掲載致しませんのでご了承ください。

受賞者抄録

最優秀演題賞

Treacher-Collins 症候群の顔貌上半分を変えるための3段階治療のプロトコール

千葉大学 医学部 形成外科

三川 信之, 秋田 新介

窪田 吉孝, 大森 直子

力久 直昭, 佐藤 兼重

聖マリア病院 形成外科

雑賀 厚臣

昭和大学 医学部 形成外科

門松 香一

【目的】Treacher-Collins 症候群は、頬骨、上顎骨、下顎骨の低形成と種々の特徴的な軟部組織異常を伴うために、特異な顔貌を呈する症候群である。今回我々は、本症候群の顔貌、特に顔面上半分を変えるため、硬・軟組織の低形成と変形に対する治療のプロトコールを作成して施行し、良好な結果を得たので報告する。【方法】Treacher-Collins 症候群の顔面上半分に対する我々の治療方針は3段階からなる。患者が学童期に達した際、まず両側の下眼瞼から頬部皮下にかけて真皮脂肪移植を行う。それによって頬部の軟部組織の不足を補いつつ、次の硬組織再建の準備とする。その後、患者の成長が止まった思春期に、3DCTをもとに作成したカスタムメイドの頬骨型人工骨を頬部に移植する。最後に両外眼角の下方傾斜に対し、上眼瞼部より下眼瞼部への眼輪筋を含んだ皮弁移行術（Z形成術）と Suture anchor system を用いた外眼角靭帯の上方移動、固定術を行った。以上の一連の治療を中～高度の頬骨と下眼瞼の形成不全を伴う本症候群の患者4例に施行した。【結果】一連の治療において、大きな合併症はなく経過は良好で、術後1年9ヵ月～3年の現在、Treacher-Collins 症候群の特有の顔貌は顔面上半分に関しては明らかに解消され、著明な改善が認められた。【考察】Treacher-Collins 症候群の顔面上半分の異常、すなわち頬部低形成、下眼瞼のノッチ状欠損、眼瞼裂斜下に対しては、骨切り術、骨・軟骨移植、脂肪移植、シリコンなどの人工物、筋膜による吊り上げなど過去に様々な治療が報告されている。しかしながら、独特の顔貌が解消されたとはとても言い難く、決定的な治療がないのが現状である。今回我々が考案した一連の3段階治療は、本症の顔面上半分を大きく変化させ、特異顔貌を改善させることが可能であった。本プロトコールは、Treacher-Collins 症候群の顔面上半分の変形に対し、極めて有効な手段であると思われた。

多合趾症の内側余剰趾切除術：整容的に良好な結果を得るための工夫

北海道大学 形成外科

古川 洋志, 林 利彦

小山 明彦, 舟山 恵美

山本 有平

背景：内側趾切除・趾間形成による多合趾症の術式について、整容的に良好な結果を得るための工夫点を検討した。対象：2005年—2012年に当教室にて内側趾切除・趾間形成を行い経過観察のできた多合趾症11例を対象とした。手術時平均年齢1歳2ヶ月（8ヶ月～3年）、平均経過観察期間は3年1ヶ月（5ヶ月～7年）であった。方法：最初、児島らが報告した丸毛法（IV・V・VIの多合趾のうちV趾を切除し、第IV趾間はV趾背側から矩形弁をパンタロンとして挙上し作成、VI趾内側面の皮膚欠損部はVI趾に基部をもつ底側皮弁で被覆）で行った。術後の外転変形、太さ、趾間の深さ、癒痕について検討し、整容的な観点から工夫すべき点を検討した。結果：当初児島らの報告した内側余剰趾切除法より開始したが、底側皮弁の長さが不足して皮弁による被覆に伴いVI趾が回外し、VI趾外転・外旋変形が残存した症例を経験したので、以後、底側皮弁の先端を足底皮膚まで延長した。IV趾外側面の皮膚欠損部はV趾切除に伴い余剰となった皮膚を移植するようにした。鼠径から植皮した症例は1例であった。1症例をのぞき、術直後にみられた外転変形はレントゲンにて改善するか、あっても整容的かつ機能的に問題とならなかった。考察：趾間形成と内側余剰趾切除、骨露出部の底側皮弁による被覆が可能な本術式であるが、整容的満足を得るためのハードルがあり、1)外転・外旋せず爪甲の整った並び方、2)深い第IV趾間、3)細いVI趾、4)鼠径からの植皮が露出しない、5)VI趾の自然な内弯、である。これらに対応すべく、1、2)皮弁の縫合時にVI趾を回外させないように底側皮弁を細長く足底まで延長する、3)VI趾内側と底側皮弁裏面の脂肪組織を十分切除する、4)底側皮弁の縫合時にVI趾先端に余る dog ear の皮膚を一塊として切除しIV趾内側に植皮して鼠径からの植皮を回避する、5) dog ear をVI趾先端内側にわずかに残し先端が軽度内側を向くなどの工夫につとめた。

第 19 回日本形成外科手術手技学会のお知らせ

第 19 回日本形成外科手術手技学会

会長 亀井 譲

この度、第 19 回日本形成外科手術手技学会を名古屋大学形成外科学教室で主催させて頂くことになり、会員の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

本学会は、1996 年に、形成外科内視鏡研究会としてはじまりました。1999 年の第 4 回に、先代の鳥居修平名誉教授が主催して以来、15 年ぶりの名古屋にての開催でございます。内視鏡研究会から手術手技研究会を経て昨年より学会に成長した集会であり、参加者、発表演題数も年々増加し、まさに発展途上の学術集会だと考えております。来年は、特別講演に、台湾から Hung-Chi Chen 先生と、弁護医師の田邊昇先生のお二方をお招きして、若手形成外科医に大いにためになるお話をさせていただく予定です。また、学術集会を 2 日間で行うことで、十分に意見交換ができる場となるよう、教室員一同鋭意準備を進め、形成外科学発展の一端を担えるよう努力したいと思いますので、多数のご参加をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

日程：平成 26 年 2 月 21 日（金）22 日（土）

場所：ウインクあいち

〒450-0002 名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38

TEL. 052-571-6131

事務局：名古屋大学医学部形成外科学教室

TEL. 052-744-2525